

COVID-19 ワクチンと HIV

HIV 陽性者にとって COVID-19 ワクチンは安全ですか？

いま開発が進められ、規制当局が承認している COVID-19 ワクチンは、ほとんどの HIV 陽性者にとって安全だと考えられています。

ワクチンの認可に際しては、国の規制当局がデータの検証を行い、安全性を確認しています。その中で、COVID-19 ワクチンのリスクに関し、HIV 陽性者のリスクが他の人たちよりも高くなるとの懸念を示すデータは出てきていません。

ワクチンには、SARS-CoV-2（COVID-19 を引き起こすウイルス）の遺伝子物質の一部が含まれています。この物質が免疫系を刺激し、SARS-CoV-2 がヒト細胞に結合するのに必要なスパイクタンパクに対する抗体を作成します。いま開発中のワクチン、および規制当局が承認しているワクチンはどれも、生ワクチンを使用していません。したがって、安全性は体内のウイルス（HIV）量が抑制されていない HIV 陽性者など、免疫機能が低下している人たちにとっても、他の人と同様になっているはずです。

COVID-19 ワクチンの臨床試験には、南アフリカなど HIV が広く流行している国が加わっているものもあるので、被験者にも HIV 陽性者が多く含まれることになります。ただし、いくつかの臨床試験では予防措置として HIV 陽性者は除外されています。

ほとんどのワクチンと同じように、COVID-19 ワクチンも接種から数日の間に軽度の症状が出ることがあります。最も多いのは腕の

痛みですが、倦怠感や軽度の発熱がある人もいます。極めて少数ではありますが、深刻なアレルギー反応を起こす人もいます。こうした反応に対しては、ワクチン接種後 15 分から 30 分の間、経過を観察することで安全に管理することができます。HIV 陽性者の間で、軽度またはより重度の副反応が、他の人たちより高いレベルで起こると考えなければならない理由はありません。

ワクチンの深刻な副反応は極めてまれであり、最初に予防接種を受けた人たちの間ではなかなか確認できません。ただし、まれではあっても深刻な有害事象が起きることに対応するため、公衆衛生当局およびワクチンの製造業者にそうした事例が報告されるようにする監視システムが整備されています。

HIV 陽性者は COVID-19 ワクチンを 受けるべきですか？

COVID-19 ワクチンは HIV 陽性者にとっても、SARS-CoV-2 による重篤な病気を防ぐこと、および感染の可能性を減らすことができるという点で、すべての個人やコミュニティにもたらすのと同じ利益を得ることができます。ただし、ワクチン接種後もすべての人が流行を極めて低いレベルに抑えられるようになるまで、SARS-CoV-2 ウイルスの感染予防策（物理的な距離、こまめな手洗い、マスクの着用など）は続けなければなりません。

HIV 陽性者は健康を保つだけでなく、HIV 感染の流行を防ぐ意味でも効果的な抗レトロウイルス治療を受けるべきです。

HIV 陽性者にとって COVID-19 ワクチンの 安全性は他の多くの人と 変わりません。



いま開発が進められ、規制当局が承認している COVID-19 ワクチンは、HIV 陽性者を含むほとんどの人にとって安全性が高いと考えられています。したがって、HIV 陽性だからということでワクチンを受けてはならないという理由はありません。



COVID-19 ワクチンは HIV 陽性者にとっても、SARS-CoV-2 による重篤な病気を防ぐこと、および感染の可能性を減らすことができるという点で、すべての個人やコミュニティが得るのと同じ利益をもたらします。



HIV 陽性者は、効果的な抗レトロウイルス治療を継続すべきです。



ワクチン接種後も、すべての人が SARS-CoV-2 ウイルスの感染予防策を継続する必要があります。



UNAIDS

